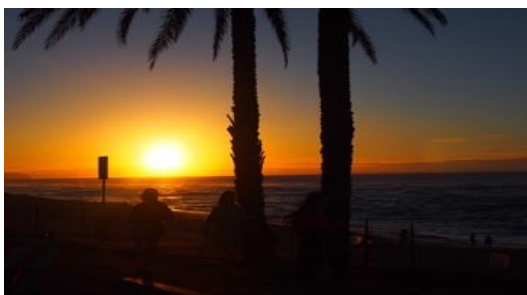


私の留学体験記

広島県立福山葦陽高等学校 1年 大島 茜音 (おおしま あかね)

留学期間 平成30年2月3日 ~ 平成30年2月17日 (2週間)

留学先 ワイパフ高校 (ハワイ, アメリカ)



今回の留学を通して、今までの自分を見つめ直し、将来の夢について考えるきっかけになったと思います。

私はホストファミリーとして、留学生を日本に迎えたとき、言葉の壁を超えて意思疎通をし、文化交流をすることの楽しさを知りました。そして自分も留学したいと思い、参加しました。

初めての事ばかりで不安な事も沢山ありました。自分が参加するメンバーでは先輩の中唯一の1年生なので上手く馴染めるのか、自分の英語が伝わるのか、現地の人と仲良くなれるか、などきりがありませんでした。ハワイに着き空港のロビーを出るとすぐ、ホストファミリーや、ハワイの友達がレイを持って笑顔であたたかく迎えてくれました。

ホストファミリーの方々は、私のことを本当の家族のように接していただき、毎日たくさんのお話を教えていただき、経験させていただきました。その中で一番の思い出は、オアフ島を車で1周したことです。早朝に家を出て、ワイキキビーチで海水浴をして、ダイヤモンドヘッド付近を通過し、海沿いを1周しました。その道中で、歴史や自然について教えてもらったり、美しい景色を見たり、ハレイワで見た夕日は今まで生きてきた中で一番の景色でした。

そして、ワイパフ高校の授業スタイルには驚きました。制服のない自由な校則に、時計のない教室、大学のような授業システム。日本の高校とは全く違ったので、学校とは別のところにいるような感覚でした。そして、ホストシスターのエマの授業に参加していくうちに、ワイパフ高校の生徒と友達になり、放課後にエマとエマの友達と買い物に行ったり、会話の中では英語を使うので、自分が話す英語が間違っていたりすると丁寧に教えてくれました。参加した音楽クラスでは、今夏葦陽に来る生徒に、ウクレレとピアノを教える機会があり、家ではエマにウクレレとギターを教える機会がありました。英語で分からないものを一から教えてもらうのは初めての経験でしたが弾けるようになりすごく嬉しかったです！



パールハーバーに行き、今自分が居るところに起こった歴史を目の当たりにして、少し、

ハワイの方とどのように接していいか分からなくなりました。ですが、エマやワイパフ高校の友達はいつもおりに話しかけてくれて、私はその時、今の自分が平和に暮らせていることにすごく感謝することができました。

そして、ワイパフ高校での生活で1番心に残ったのは、私と話す時に、一生懸命日本語を調べて、私とコミュニケーションを取ってくれた人がたくさんいたことです。私はまだ英語を流暢に話すことはできませんが、言語の壁という理由でコミュニケーションを取ることを諦めるのは絶対にしないと決めました。

別れの日、寂しくて涙が止まらない時、ホストマザーが”私たちの心はいつでもあなたのそばにいます”と言ってくれました。私はこのかけがえのない思い出の詰まった2週間を、これからの高校生活や進路に生かしたいと思います。

